

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ5章16-21節>
パウロの見事な論理的な理解を示す箇所。丁寧にすることが大事です。

1 信仰の魅力：人の見方が変わる。神によって新たにされるから！

出だしの「それで」(16)はその前の15節の内容を考えています。すなわち「イエス様が私たちのために死んで復活して下さった」ことです。イエス様の死と復活の出来事は神様がなされた特別な出来事なのです。ですから、私たちはここに神様が込められた特別な意味(尋常では考えられない意味)を見出さなければならぬし、見出していいのです。パウロは、それによって人の見方が変わったと語っています。イエス様に起こった復活の出来事はイエス様にだけ関係する出来事ではなく、「キリストと結ばれる人(キリストにある人) in Christ」(17)にも神様が起こされる新しい創造の出来事と考えなければならぬし、考えていいのだと語っているのです。よってどんな人をも決めつけず、前とは違う新しい可能性を秘めた人として見るようになったと言っているのです。

2 「これらはすべて神から出ること」(18) — これぞ信仰のツボ！

上で述べたことをパウロは次の様に表現しています、「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(17)と。しかし、ここで人が変るということではなく、神が変えられるということに目をやらなければなりません。パウロがしきりに「神との和解」(18,19,20)を説いています。「罪」(21)とは、神と私たちの関係の言葉(神を見ないで神に背を向けて生きること：ハマルティアの原意)でした。パウロはイエス・キリストの死と復活に出会い、「罪」深かった自分を見捨てず、「罪」を赦して下さった神様(聖書の神様の「義」21の内容!)の存在を心から信じる者となり、自分に与えて下さった再生(新創造)を他の人にも与えて下さると信じるから人を見る目が変わったのです。その人を見るのではなく、その人を変えることのできる神様を見る者となったのです。その様な神様を伝える使命を与えられたのだと語っているのです(18節以下)。私たちがこの神様を伝える